

2003年の大雨

7月梅雨末期の集中豪雨、8月台風第10号による大雨

1. 概要

(1) 今年の梅雨入りは、沖縄地方では平年より遅く、奄美地方はやや遅かった。九州から本州にかけては、6月10日前後にほぼ一斉に梅雨入りした。梅雨明けは、沖縄地方と奄美地方ではともに平年並みであったが、それ以外の地方では平年よりかなり遅れた。西日本では梅雨明けの直前に集中豪雨による災害が数回発生した。梅雨期間の総降水量は西日本では平年を大きく上回った所が多かった。

(2) 台風の発生数は21個と少なかったが、早い時期から日本への接近があり、発生した台風の半分以上の12個が日本に接近した。また、5月には台風第4号が、8月には台風第10号が四国に上陸した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に大きな影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめる。浸水家屋とは床上浸水と床下浸水の合計を示す。負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

3月6日～10日：北日本、関東、九州<低気圧、冬型の気圧配置>

6日から8日に、低気圧が九州から本州の南岸を発達しながら進んで三陸沖に達し、11日にかけて冬型の気圧配置が続いた。このため、7日には全国的に雨または雪が降り、三重県尾鷲市で日降水量117 mmを観測するなど、東海地方から東北地方の太平洋側で大雨となった。岩手県釜石市では土砂崩れが発生し住民数十名に避難指示がでた。8日は釧路で最大風速20.1 m/s、最大瞬間風速32.1 m/sを観測するなど、北海道から東北地方にかけて強い風が吹いた。このため、岩手県大船渡市では高波により湾口の防波堤が約60 mにわたり崩れた。また、強風や大雪による交通機関への障害も多数発生した。

5月30日～6月1日：東日本～西日本<台風第4号>

台風第4号は、30日に南西諸島および九州の東海上を北北東に進み、31日06時半頃愛媛県宇和島市付近に

上陸、31日09時に温帯低気圧になった。この低気圧はさらに北東に進み、6月2日にオホーツク海に達した。

30日は、台風が接近した九州地方や四国地方では、宮崎県北方町で日降水量287 mm、高知県佐川町で262 mmを観測するなど大雨となった。31日は、三重県御浜町で最大1時間降水量93 mm、神奈川県藤沢市辻堂で75 mmなど四国から関東地方の太平洋側で猛烈な雨となり、日降水量は三重県尾鷲市で464 mm、静岡県中伊豆町天城山で296 mm、徳島県上勝町福原旭で238 mmを観測した。

この大雨により、徳島県では増水した河川に流されて1名の死者があった。また、降水量の多かった高知県、徳島県、三重県、神奈川県を中心として山・がけ崩れ等の土砂災害や住家の浸水被害が発生した。また、各地で強風による交通機関の障害、農作物への被害も多数発生した。

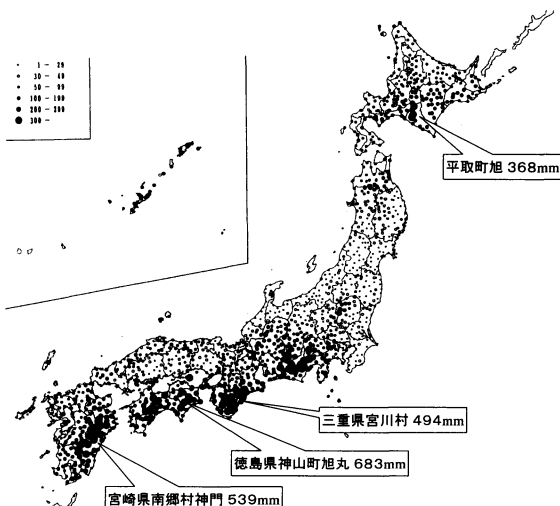
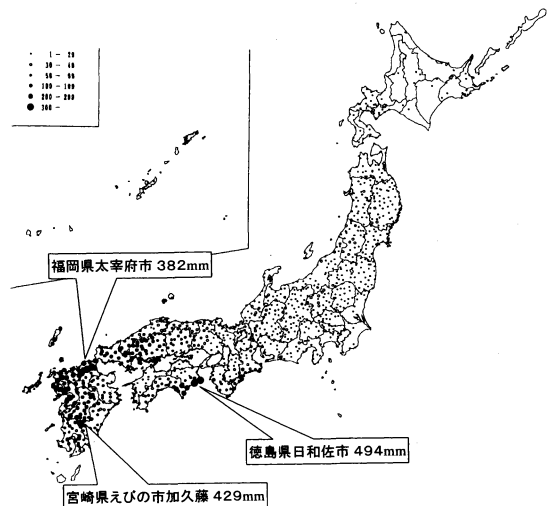
6月17日～21日：全国<梅雨前線、台風第6号>

台風第6号は、18日に西表島を通過し、東シナ海を北北東に進み、19日昼過ぎに対馬を通過した後、隠岐の北北東海上で温帯低気圧に変わった。

17日から21日にかけて、台風と梅雨前線の影響で、九州地方で総降水量300 mmを超える大雨となった。その他の地方でも、18日には高知県土佐清水市で日降水量173 mm、19日には徳島県東祖谷山村京上で156 mm、21日には北海道浜中町榊町で173 mmなど四国や北海道で大雨となった。

また、18日は台風が通過した西表島で、最大風速30.4 m/s、最大瞬間風速56.6 m/sを観測するなど、宮古・八重山地方で暴風となった。19日は、台風が接近した福江で最大風速20.9 m/s、最大瞬間風速41.2 m/sを観測した。

この前線と台風の影響により、沖縄地方や日本海側の各地で強風による交通機関の障害や農作物への被害が多数発生した。また、九州地方を中心として強風による負傷者も発生した。大雨による被害は、がけ崩れ等の土砂災害が九州地方や四国地方で発生し、道路の損壊が北海道で発生した。



降水量の多い10地点

都道府県名	市町村名	アメダス地点名	降水量 (mm)
徳島	日和佐町	日和佐	494
徳島	阿南市	蒲生田	433
宮崎	えびの市	加久藤	429
福岡	太宰府市	太宰府	382
福岡	飯塚市	飯塚	346
福岡	北九州市	頂吉	322
佐賀	太良町	多良岳	288
高知	室戸市	佐喜浜	283
徳島	穴喰町	穴喰	270
高知	安芸市	安芸	267

降水量の多い10地点

都道府県名	市町村名	アメダス地点名	降水量 (mm)
徳島	神山町	旭丸	683
高知	馬路村	魚梁瀬	639
宮崎	南郷村	神門	539
徳島	上勝町	福原旭	530
徳島	木頭村	木頭	506
高知	東津野村	船戸	500
三重	宮川村	宮川	494
奈良	上北山村	日出岳	483
徳島	上北山村	上北山	476
宮崎	北郷村	中小屋	446

第1図 期間降水量分布図 (平成15年7月18日~21日).

第2図 期間降水量分布図 (平成15年8月7日~10日).

**7月3日~4日：東海地方，東北地方<梅雨前線，
大気不安定>**

梅雨前線上の低気圧が日本海を北東に進み，低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだ。このため，前線の活動が活発となり，4日に静岡県静岡市で日降水量237mm，最大1時間降水量113mmの猛烈な雨を観測するなど東海地方を中心として大雨となった。このため，静岡県では1900棟を超す住家の浸水被害や農業被害が発生した。また，東北地方でも大雨となり，がけ崩れ等による交通障害が発生した。

7月10日~13日：北日本~西日本<梅雨前線>

梅雨前線が本州付近に停滞し，前線上を低気圧が次々に通過した。10日は，山形県遊佐町鳥海山で日降水量229mm，北海道えりも町目黒で224mmなど北日本を中心に大雨となり，東北地方の各地で土砂崩れ等による被害が発生した。11日から12日は西日本の日本

海側で大雨となり，11日に福岡県北九州市頂吉で日降水量146mm，最大1時間降水量64mmの非常に激しい雨となり，九州北部では住家浸水60棟等の被害が発生した。12日は，山口県美祢市桜山で最大1時間降水量80mm，熊本県熊本市で日降水量288mm，最大1時間降水量80.5mmの猛烈な雨となり，山口県内では住家の全壊，浸水，がけ崩れが多数発生した。また，北海道鶴居町で日降水量129mmを観測するなど北海道釧路地方で大雨となり，土砂崩れにより住宅2棟が全壊するなどの被害が発生した。

7月18日~21日：九州地方<梅雨前線>

7月18日から21日にかけて，九州北部付近に停滞していた梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み，梅雨前線の活動が活発化した。このため，九州地方を中心に，局地的に1時間80mm以上の猛烈な雨を含む豪雨となった。この期間の総降水量は，所々

で300 mm を超えるなど、広い範囲で200 mm 以上の大雨となった。期間降水量を図1に示す。

このため、九州の各地で土砂・土石流災害が頻発し、熊本県で19名、鹿児島県で2名、福岡県と長崎県でそれぞれ1名、計23名の死者が出た。また、河川の氾濫等により福岡県太宰府市から福岡市にかけて、および飯塚市等で多数の浸水害が発生した。その他、中国・四国地方でも大雨による被害が多発し、徳島県では浸水や山・がけ崩れによる住家被害が275棟あった。山口県では突風により約70棟の住家に被害があった。

7月23日：長崎県<梅雨前線>

梅雨前線が対馬海峡付近に停滞し、活動が活発になったため、厳原では最大1時間降水量116 mm の猛烈な雨が降り、住家浸水40棟やがけ崩れ、道路陥没等の被害が発生した。

8月7日～10日：全国<台風第10号、前線>

台風第10号は7日の昼前に、沖縄本島付近を通過して東シナ海に進んだ。7日午後には勢力を強めながら北北東に向きを変え、8日早朝にかけて奄美諸島沿いに進んだ。8日夜には強い勢力を保ったまま高知県室戸市付近に上陸し、さらに9日朝には兵庫県西宮市付近に再上陸した。その後は勢力を弱めて北陸、東北地方を通過し、10日未明に北海道の襟裳岬付近に上陸した後、北海道東部で温帯低気圧に変わった。

8月7日から9日にかけて、台風の影響で南西諸島から本州付近では広い範囲で大雨となり、沖縄・九州・四国地方の一部では猛烈な風となった。また、9日には、オホーツク海の低気圧から延びる前線と台風の影響により北海道地方の一部では大雨となった。期間降水量を図2に示す。

この台風と前線による大雨で全国的に被害が発生し、死者・行方不明者19人、負傷者87人、建物被害約1,700戸などがあった(平成15年8月27日警察庁調べ)。特に北海道では、河川の氾濫等により死者・行方不明者11人など被害が大きかった。

8月14日～15日：東日本、西日本<前線>

本州南岸に前線が停滞し、東日本から西日本の太平洋側で大雨となった。14日は、四国地方を中心として大雨となった。高知県土佐清水市では日降水量230 mm、最大1時間降水量62 mm の非常に激しい雨となり、土砂崩れによる道路への被害が発生した。15日は、

中部地方や関東地方で大雨となり、静岡県中伊豆町天城山で日降水量319 mm を観測した。静岡県中伊豆町では林道が土砂崩れで通行できなくなり、キャンプ場に客が取り残された。その他、神奈川県では住家7棟ががけ崩れ等により被害を受け、関東地方、東海地方の各県で住家への浸水や土砂崩れによる被害が発生した。

8月25日～26日：東北地方、近畿地方、九州地方<前線>

25日には、停滞前線が朝鮮半島から東北地方にかけ、大気状態が不安定となった東北地方では秋田県能代市で最大1時間降水量57 mm の非常に激しい雨が降るなど、局地的に強い雨や落雷があった。このため、秋田県で住家111棟、山形県で53棟の浸水被害や、道路損壊、橋の流出等の被害が発生した。また、岩手県北上市では竜巻が発生し、住家に被害があった。26日は、前線が南下し近畿地方や九州地方で強雨や落雷があった。大阪府熊取町では最大1時間降水量54 mm の非常に激しい雨となり、大阪府で66棟の住家が浸水の被害にあった。落雷による鉄道への障害や停電も多数発生した。また、長崎県大瀬戸町で最大1時間降水量97 mm、熊本県水俣市で最大1時間降水量77 mm など九州地方でも猛烈な雨が観測され、浸水やがけ崩れなどの被害が発生した。

9月11日～13日：北日本、北陸、西日本、南西諸島<台風第14号>

台風第14号は、中心付近の最大風速が55 m/s の猛烈な勢力を維持したまま11日04時過ぎに宮古島付近を通過した。台風は東シナ海を進み、12日21時頃に朝鮮半島に上陸、その後、勢力を弱めながら日本海を進み、14日06時にオホーツク海上で温帯低気圧に変わった。

10日17時頃から11日17時頃まで約24時間暴風域に入った宮古島地方では、死者1名を含む負傷者多数の人的被害が発生した。また、宮古島、伊良部島、下地島のほぼ全世帯で停電となった。その他、宮古・八重山地方では農作物への被害、高潮による浸水害、海上・航空交通機関の障害等が発生した。

11日から12日には、台風の北上に伴い九州・四国地方を中心として大雨となり、土砂災害や道路冠水、住家への浸水被害が発生した。また、12日から13日にかけては、九州や本州の日本海側、および北海道で強風による農作物、交通機関等への被害が多数発生した。

9月19～22日：関東、南西諸島<台風第15号>

台風第15号は、19日から20日にかけて沖縄本島北東部、および奄美大島付近を通過した。その後、東北東に進路を変えて紀伊半島の南海上で勢力が最強となった。北東に進路を変えた後は、関東の南海上を進み、23日09時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。

台風が通過した南西諸島では、那覇で最大風速18.4 m/s、最大瞬間風速31.9 m/s、沖永良部で最大風速29.4 m/s、最大瞬間風速42.3 m/sなどの非常に強い風を観測した。また、台風が接近した伊豆諸島では、八丈島で最大風速32.1 m/s、瞬間最大風速59.5 msの猛烈な風や最大1時間降水量91.5 mmの猛烈な雨を観測した。

この台風により、南西諸島では海上や航空の交通機関に欠航などの障害が多数発生し、種子島の南東海上では中国船籍の漁船が遭難して乗組員11名が行方不明となった。また、猛烈な雨や風となった伊豆諸島では、八丈島を中心として住家191棟や農作物に被害が発生した。

10月12～13日：東日本、西日本<低気圧>

沖縄近海で発生した低気圧が、12日から13日にかけて本州南岸を東に進み、九州地方から関東地方にかけての太平洋側や、中部地方の一部で大雨や強風となった。12日には、宮崎県延岡市で竜巻が発生し、住家16棟に被害があった。また、高知県安芸市でも竜巻が発生し住家10棟が一部損壊した他、ビニールハウス倒壊など農業施設や農作物への被害があった。13日は、大阪府熊取町で最大1時間降水量45 mmの激しい雨が

観測され、46棟の住家浸水や道路冠水があった他、落雷による停電が発生した。関東地方では、この低気圧の通過に伴い神奈川県相模原市で最大1時間降水量45 mm、東京都千代田区で57.5 mm、千葉県我孫子市で61 mm、茨城県龍ヶ崎市で60 mmなど非常に激しい雨が降り、多数の家屋に浸水被害が発生した他、東京都では地下鉄の線路内に雨水が流れ込み運休等の障害が発生した。また、千葉県佐倉市や成田市、茨城県神栖町では突風が発生し、鹿島港の大型クレーン倒壊、鉄道の運休、農業施設の損壊など大きな被害となった。

11月27日～30日：四国、九州<低気圧>

27日から28日にかけて、南西諸島から朝鮮半島にのびる気圧の谷がゆっくり東に進んだ。29日には、朝鮮半島の東海上、および紀伊半島沖にそれぞれ低気圧が発生した。このため、27日から28日は九州や四国で、29日は四国や紀伊半島で大雨となった。高知県では、28日に室戸市佐喜浜で日降水量479 mm、最大1時間降水量129 mmを観測するなど猛烈な雨となり、裏山が崩れた住家1棟が一部損壊した他、浸水52棟、道路損壊34か所などの被害が発生した。また、大分県蒲江町で日降水量182 mm、最大1時間降水量36 mmなど激しい雨となり、27ヶ所で山・がけ崩れが発生し21棟の住家が一部損壊した他、179棟が浸水するなどの被害があった。29日には、徳島県穴喰町で日降水量357 mm、最大1時間降水量73 mmを観測し、27棟の住家に浸水の被害が発生したほか、道路冠水による通行止め、鉄道の運休等があった。

2003年の台風

少ない発生数と多い接近数

1. 概況

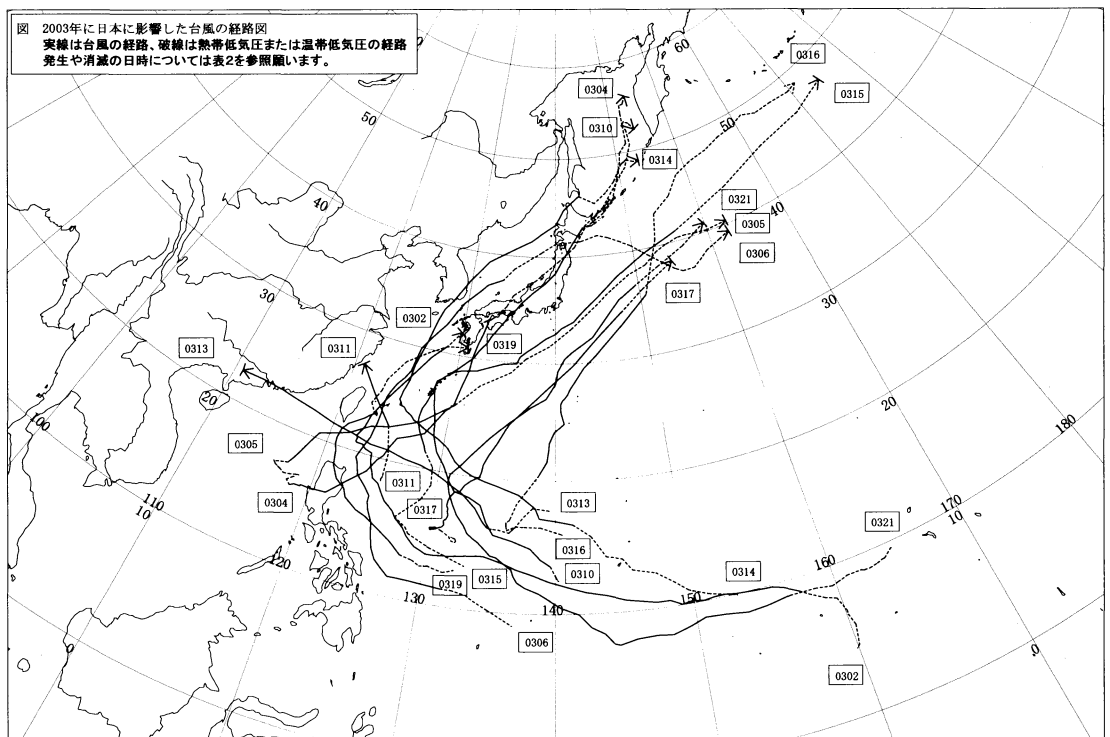
2003年に発生した台風は21個で、年間発生数の平均値(26.7個)より少なかった。年前半(6月末まで)に発生した台風は6個で、平均(4.5個)より多めであったが、その後は平均より少なく推移した。今年(2003年)の発生数21個は、気象庁が1951年(昭和26年)に台風統計を開始して以降で歴代第3位の少ない発生数である(第4表)。

日本に上陸した台風は、台風第4号と台風第10号の2個(平均2.6個)であった。また、接近数は日本本土は平均並(5.2個)の6個、南西諸島は平均(7.2個)よりやや多い9個で、日本全体としては12個(平均10.8個)で、発生した台風の半分以上が接近したことになる。

第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に2003年に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響した主な台風

日本に影響した主な台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする。)のうち、主な台風について以下に概要を示す。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、気象台や測候所などのときはその官署名を、アメダス地点の場合は都道府県名、市町村名及び地点名(地点名が市町村名と同じ場合は省略)とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部警察庁発表の資料も使用した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。



第1図 2003年に日本に影響した台風の経路図。実線は台風の経路、破線は熱帯低気圧または温帯低気圧の経路。発生や消滅の日時については表2を参照願います。

第1表 2003年の台風発生、日本への上陸、日本への接近数

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平年	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
2002年	発生数	1	1			1	3	5	6	4	2	2	1	26
	上陸数							2			1			3
	接近数						1	6	2	2	1	1		13
2003年	発生数	1			1	2	2	2	5	3	3	2		21
	上陸数					1			1					2
	接近数				1	1	2		2	3	1	1	1	12

(注) 平年値は1971年～2000年の30年平均。

日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸：台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。

接近：台風の中心が、日本の海岸線から300km以内に入った場合を「接近」という。

(1) 台風第2号 (KUJIRA)

西表島近海を通過、九州西海上へ

4月9日09時にポンペイ島の南南東海上で発生した熱帯低気圧は、北に進んだ後に北西に進路を変え、11日09時に台風第2号になった。勢力を強めながらグアム南東海上を西に進んだ台風は、西北西に進路を変え、16日03時にヤップ島の北海上で勢力が最強となった後、勢力を弱めながら進路を西のち北西に変え、ルソン島の東方沖に達した。その後、台風は勢力を維持しながら北東に進路をとり、24日19時頃に西表島近海を通過し、東シナ海を進んだ。台風は25日12時に屋久島の西海上で熱帯低気圧に変わり、25日21時に九州の西海上で消滅した。

24日には、石垣島で最大風速21.3 m/s、最大瞬間風速39.2 m/s、25日には、油津で最大風速17.6 m/s、最大瞬間風速24.7 m/s、室戸岬で最大風速24.7 m/s、最大瞬間風速34.4 m/s、浜田で最大風速17.6 m/s、最大瞬間風速26.1 m/sなどの暴風を観測した。

石垣島では強風によりビニールハウス等の農業施設に被害が発生した。また、24日から25日にかけて西日本には前線が停滞し、この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、九州地方や四国地方では濃霧となり、海や空の交通機関で欠航や遅延が多数発生した。

(2) 台風第4号 (LINFA) 四国に上陸

5月25日15時にルソン島の西海上で発生した熱帯低気圧は、反時計回りの進路を取り、26日09時に同海域で台風第4号になった。その後、台風は東に進みながら発達を続け、ルソン島に上陸した。上陸中は勢力を弱めたものの進路を北東に変え、ルソン島を抜けた台風は再び発達し、30日03時に沖縄の南海上で勢力が最

強となった。その後南大東島の近海を進み、北北東に進路をとった台風は九州の東海上を通過し、31日06時半頃愛媛県宇和島市付近に上陸後、31日09時に四国北部で温帯低気圧になった。低気圧は北東に進み、6月2日にオホーツク海に達し、6月4日に同海域で消滅した。

30日は、西日本で雨となり、台風が接近した九州地方や四国地方では、宮崎県北方町で日降水量287 mm、高知県佐川町で262 mmを観測するなど一部で大雨となった。31日は、三重県御浜町で日最大1時間降水量93 mm、神奈川県藤沢市辻堂で75 mmなど四国から関東地方の太平洋側で猛烈な雨となり、主な日降水量は三重県尾鷲市464 mm、静岡県中伊豆町天城山296 mm、徳島県上勝町福原旭238 mmなどであった。また、室戸岬で最大風速33.3 m/s、最大瞬間風速39.0 m/sを観測したほか、西日本を中心として強風となった。6月1日は、台風から変わった低気圧の影響で、中部地方や北日本を中心として雨が降った。

この大雨により、徳島県では増水した河川に流されて1名の死者があった。また、降水量の多かった高知県、徳島県、三重県、神奈川県を中心として山・がけ崩れ等の土砂災害や住家の浸水被害が発生した。また、各地で強風による交通機関の障害、農作物への被害も多数発生した。

(3) 台風第6号 (SOUDELOR)

西表島、対馬を通過

6月12日09時にパラオ島の北東海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進みながら発達し、13日15時にフィリピンの東海上で台風第6号になった。台風は西に進路を変えた後、勢力を保ちながらルソン島の東海上を北北西に進んだ。その後、台風は発達し強い勢力とな

第2表 2003年に発生した台風の一覧表。

台風番号	熱帯低気圧の発生		台風の発生		海面気圧		風速		強風域		半径		値		熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時																		
	月	日	時	北緯	東経	月	日	時	北緯	東経	月	日	時	北緯	東経	月	日	時	北緯	東経															
1	YANYAN	1	15	15	6.9	163.1	1	18	15	14.1	146.5	1	20	15	1000	1	20	15	18	19	15	NE:280	SW:180	1	20	21	17.4	154.9	TD	1	21	09	18.7	156.3	
2	KUJIRA	4	09	09	4.1	159.9	4	11	09	9.0	157.4	4	16	15	930	4	25	15	45	16	15	NE:460	SW:330	4	25	12	30.6	128.6	TD	4	25	15	32.1	129.9	
3	CHAN-HOM	5	19	09	7.1	153.0	5	20	21	8.3	150.7	5	25	03	940	5	25	03	45	26	03	E:650	W:460	5	27	15	34.8	169.5	L	5	28	15	35.5	177.7	
4	LINFA	5	25	15	16.5	118.5	5	26	09	15.8	118.4	5	31	03	980	5	30	12	30	30	09	SE:560	NW:280	5	31	09	33.9	133.2	L	6	4	15	55.9	153.6	
5	NANGKA	5	30	09	16.8	118.8	6	1	09	17.4	117.6	6	2	15	985	6	2	21	25	6	2	03	NE:310	SW:190	6	3	21	25.7	130.4	TD	6	7	21	40.3	162.6
6	SOUDELOR	6	12	09	9.1	136.9	6	13	15	11.2	131.5	6	18	18	955	6	18	18	40	6	16	21	SE:500	NW:280	6	20	00	37.5	133.7	L	6	24	09	39.2	162.5
7	IMBUDO	7	15	09	4.8	150.4	7	17	15	8.3	140.9	7	21	03	935	7	21	03	45	7	22	15	SE:600	NW:440	7	25	09	23.0	106.0	TD	7	25	21	23.5	104.4
8	KONI	7	15	09	9.4	134.8	7	18	15	12.3	119.1	7	21	15	975	7	21	09	30	7	20	09	S:300	N:220	7	23	03	20.0	103.0	TD	7	23	03	20.0	103.0
9	MORAKOT	8	3	03	15.4	127.5	8	2	15	18.9	125.1	8	3	15	992	8	3	21	23	8	3	15	NE:220	SW:190	8	4	21	23.8	118.0	TD	8	4	21	23.8	118.0
10	ETAU	8	3	03	12.4	140.2	8	3	15	13.4	139.6	8	7	19	945	8	7	19	45	8	12	SE:600	NW:460	8	10	03	42.8	143.7	L	8	12	03	52.2	154.0	
11	VAMCO	8	18	15	18.3	125.3	8	19	15	22.7	124.8	8	20	03	996	8	20	03	18	8	20	03	E:150	W:110	8	20	09	27.2	120.9	TD	8	20	09	27.2	120.9
12	KROVANH	8	14	03	7.2	156.0	8	20	21	18.9	131.3	8	25	15	970	8	25	15	35	8	24	09	SE:650	NW:200	8	26	15	22.7	104.9	TD	8	26	21	22.0	103.0
13	DUJUAN	8	28	03	17.6	139.5	8	30	03	16.0	134.7	9	2	09	950	9	2	09	40	9	1	15	NE:600	SW:370	9	3	09	22.5	110.7	TD	9	3	09	22.5	110.7
14	MAEMI	9	4	09	9.9	153.1	9	6	15	16.5	141.4	9	11	09	910	9	11	09	55	9	12	18	SE:560	NW:460	9	14	06	46.0	143.5	L	9	16	09	48.9	153.4
15	CHOI-WAN	9	16	09	13.1	133.0	9	18	09	21.4	128.5	9	22	00	955	9	22	12	35	9	21	18	SE:560	NW:370	9	23	09	41.0	156.0	L	9	24	09	域外	域外
16	KOPPU	9	24	09	15.8	140.5	9	27	03	20.4	138.6	9	29	15	960	9	29	15	35	9	28	15	NW:650	SE:410	9	30	15	35.6	150.7	L	10	3	21	域外	域外
17	KETSANA	10	17	15	15.1	131.8	10	19	09	15.6	130.4	10	24	03	940	10	24	15	45	10	23	03	NW:650	SE:520	10	26	15	34.4	147.7	L	10	27	03	38.2	154.6
18	PARMA	10	19	09	18.4	145.2	10	21	09	21.0	144.4	10	25	03	930	10	25	03	50	10	25	03	SE:430	NW:370	10	31	21	32.0	167.0	L	11	2	03	域外	域外
19	MELOR	10	29	09	12.7	132.3	10	30	21	13.1	128.1	11	1	09	980	11	1	09	25	11	2	15	NE:280	SW:150	11	4	03	23.5	123.5	TD	11	6	09	30.8	130.8
20	INPARTAK	11	12	03	10.8	139.5	11	13	03	12.1	131.8	11	17	03	970	11	17	03	35	11	16	03	N:430	S:280	11	19	15	21.0	109.0	TD	11	19	21	21.3	109.7
21	LUPIT	11	18	21	9.5	164.5	11	21	21	8.9	156.7	11	28	03	915	11	28	09	50	11	27	15	N:950	S:650	12	2	21	36.7	149.7	L	12	3	15	40.9	159.8

表中の日はすべて日本時 (JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 2003年に日本に影響した台風の一覧表。

台風 番号	日本への影響		日本への接近		上陸, 通過
	始 月日	終 月日	始 月日	終 月日	
2	4.22	4.25	4.24	4.25	
4	5.28	5.31	5.30	5.31	5月31日06時半頃、愛媛県宇和島市付近に上陸した。
5	6.2	6.3	6.3	6.3	
6	6.17	6.19	6.17	6.19	6月18日05時半頃、西表島を通過した。 6月19日13時頃、対馬を通過した。
10	8.6	8.10	8.6	8.10	8月7日09時半頃、沖縄本島付近を通過した。 8月8日19時半頃、奄美大島付近を通過した。 8月8日22時前、高知県室戸市付近に上陸した。 8月9日03時頃、兵庫県淡路島を通過した。 8月9日06時頃、兵庫県西宮市付近に再上陸した。 8月10日01時半頃、北海道襟裳岬付近に再上陸した。
11	8.19	8.20	8.19	8.19	
13	9.1	9.2			
14	9.9	9.14	9.10	9.14	9月11日04時過ぎ、宮古島付近を通過した。
15	9.18	9.22	9.19	9.22	9月19日17時半頃、沖縄本島北東部を通過した。 9月20日07時半頃、奄美大島付近を通過した。
16	9.27	9.29	9.28	9.28	
17	10.25	10.26	10.25	10.25	
19	11.2	11.4	11.3	11.3	
21	11.30	12.2	12.1	12.1	

り、18日05時半頃に西表島を通過し、東シナ海を北北東に進んだ。18日15時に最も発達した後は次第に勢力を弱めて、19日13時頃に対馬を通過した。その後、日本海を北東に進み、20日00時に隠岐の北北東海上で温帯低気圧になり、同日北日本を通過して、24日15時に日本のはるか東海上で消滅した。

主な日降水量は、18日は高知県土佐清水市173 mm、熊本県上村白髪岳123 mm、長崎県福江市112 mm、宮崎県えびの市110 mm、19日は徳島県東祖谷山村京上156 mm、宮崎県えびの市122 mm、鹿児島県高山町甫与志岳106 mm、高知県池川町102 mm などであった。

18日には、石垣島で最大風速25.7 m/s、最大瞬間風速40.8 m/s、西表島で最大風速30.4 m/s、最大瞬間風速56.6 m/s、19日には、福江で最大風速20.9 m/s、最大瞬間風速41.2 m/s、厳原で最大風速20.3 m/s、最大瞬間風速35.6 m/s、西郷で最大風速20.9 m/s、最大瞬間風速40.6 m/s、広島で最大風速20.7 m/s、最大瞬間風速33.6 m/s などの暴風を観測した。

この台風と前線の影響により、沖縄地方や日本海側の各地で強風による交通機関の障害や農作物への被害が多数発生した。また、九州地方を中心として強風による負傷者も多く発生した。大雨による被害は、かけ崩れ等の土砂災害が九州地方や四国地方で発生し、道路の損壊が北海道で発生した。

(4) 台風第10号 (ETAU)

四国に上陸後日本列島を縦断

8月3日03時にヤップ島の北東海上で発生した熱帯低気圧は、北西に進み、同日15時にヤップ島の北北東海上で台風第10号になった。台風は進路を北西にとったまま発達を続け、6日に進路を北北西に変えて、7日09時半頃に沖縄本島付近を通過した。更に発達した台風は、同日15時に沖縄近海で大型で非常に強い勢力となり、北東に進路を変えた。同日19時半頃には奄美大島付近を通過し、8日22時前に高知県室戸市付近に上陸した。その後、9日03時頃に兵庫県淡路島を通過し、同日06時頃に兵庫県西宮市付近に再上陸した。台風は勢力を弱めながら近畿、北陸、東北地方を通過し、北海道の南海上に抜けた。10日01時半頃に北海道襟裳岬付近に再上陸し、同日03時に北海道東部で温帯低気圧となった。低気圧はオホーツク海に進み、12日09時にカムチャツカ半島の西海上で消滅した。

主な日降水量は、7日に熊本県湯前町湯前横谷257 mm、宮崎県北郷村中小屋243 mm、鹿児島県名瀬市214

mm、8日に高知県馬路村魚梁瀬604 mm、徳島県神山町旭丸576 mm、奈良県上北山村日出岳352 mm、9日に北海道平取町旭358 mm、愛知県津具村茶白山306 mm であった。

この台風と前線による大雨で全国的に被害が発生し、死者・行方不明者19人、負傷者87人、建物被害約1,700戸などがあった(平成15年8月27日警察庁調べ)。特に北海道では、河川の氾濫等により死者・行方不明者11人など被害が大きかった。

また台風は、7日沖縄本島通過時から8日室戸市付近上陸時にかけて、中心付近の最大風速40 m/s、風速25 m/s 以上の暴風域半径約200 km の勢力を維持し、南西諸島、九州、四国、近畿、東海地方では台風の接近通過時を中心に暴風となった。

なお、8日01時半頃宮崎県日南市で、07時半頃宮崎県日向市で竜巻とみられる突風が発生し、住宅の損壊、防風林で倒木などの被害が発生した。さらに、8日20時半頃から21時頃にかけて、埼玉県熊谷市で竜巻とみられる突風が発生し、ゴルフ練習場の鉄塔の倒壊や、住宅の屋根瓦が飛ぶなどの被害が発生した。

(5) 台風第14号 (MAEMI)

猛烈な勢力で宮古島付近を通過

9月4日09時にトラック諸島の北海上で発生した熱帯低気圧は、北西に進んだ後、6日15時にマリアナ諸島の西海上で台風第14号になった。台風は北西にほぼ直進しながら発達し、9日21時に非常に強い勢力、10日21時に宮古島の南東海上で猛烈な勢力となった。この勢力を維持したまま11日04時過ぎに宮古島付近を通過した。その後進路を北北東に変えた台風は、東シナ海を進み、12日21時頃に朝鮮半島に上陸した。さらに台風は、日本海に進み勢力を弱めて北東に進路を変え、14日06時にオホーツク海上で温帯低気圧になり、16日15時に千島近海で消滅した。

主な日降水量は、11日に台風が通過した沖縄県宮古島285 mm、伊良部町304 mm、12日に高知県本川村248 mm、徳島県阿南市大竜寺山291 mm、13日に北海道白老町森野64 mm などであった。

また、11日に宮古島で最大風速38.4 m/s、最大瞬間風速74.1 m/s、石垣島で最大風速21.7 m/s、最大瞬間風速40.0 m/s、12日に厳原で最大風速24.9 m/s、最大瞬間風速46.5 m/s、13日に山形県飛鳥で最大風速26 m/s などを観測した。

宮古島で観測した最大瞬間風速74.1 m/s は、全国で

歴代7位、沖縄県では第2宮古島台風(1966年)、第3宮古島台風(1968年)に次いで歴代3位であった。また、最低海面気圧912.0 hPaは全国で歴代4位、沖縄県では宮古島台風(1959年)に次いで歴代2位であった。

10日17時頃から11日17時頃まで約24時間暴風域に入った宮古島地方では、コンクリート製の電柱約880本や風力発電機が倒壊するなど、宮古島、伊良部島、下地島のほぼ全世帯が停電した。また、死者1名、負傷者96名の人的被害も発生した。その他、宮古・八重山地方では農作物への被害、高潮による浸水害、海上・航空交通機関の障害等が発生した。

11日から12日には、台風の北上に伴い九州・四国地方を中心として大雨となり、土砂災害や道路冠水、住家への浸水被害が発生した。また、12日から13日にかけては、九州や本州の日本海側、および北海道で強風による農作物、交通機関等への被害が多数発生した。

なお、12日には、高知県高知市で竜巻が発生し、156棟の住家に一部損壊などの被害があったほか、飛ばされた軽自動車に乗車していた1名が軽傷を負った。

(6) 台風第15号 (CHOI-WAN)

南西諸島から日本の南海上へ進む

9月16日09時にパラオ諸島の北北西海上で発生した熱帯低気圧は、北西に進んだ後、17日09時頃に北東に進路を変えた。この低気圧は、同日21時に再び北西に進路を変えた後、18日09時に沖縄の南方海上で台風第15号になった。その後北北東に進路を変えて発達を続けた台風は、19日17時半頃に沖縄本島北東部を通過し

た。さらに20日07時半頃に奄美大島付近を通過、東北東に進路を変えて四国沖の海上へ進み強い勢力に発達した。21日06時に紀伊半島の南海上で勢力が最強となった強い台風は、同日09時頃に北東へ進路を変え八丈島の近海を通過した。その後、北東にほぼ直進しながら勢力を弱めた台風は、23日09時に北海道の東海上で温帯低気圧になり、24日に日付変更線を通過した。

主な日降水量は、19日は名護90 mm、20日は三宅島147 mm、名瀬105 mm、21日は三宅島210 mm、八丈島171 mm、静岡県中伊豆町天城山146 mm、山梨県山中湖村132 mmなどであった。

19日には、名護で最大風速18.3 m/s、最大瞬間風速31.9 m/s、那覇で最大風速18.4 m/s、最大瞬間風速30.8 m/s、沖永良部で最大風速29.4 m/s、最大瞬間風速42.3 m/s、20日には、屋久島で最大風速21.0 m/s、最大瞬間風速26.8 m/s、21日には、室戸岬で最大風速23.2 m/s、最大瞬間風速37.2 m/s、22日には銚子で最大風速25.9 m/s、最大瞬間風速35.1 m/s、八丈島で最大風速32.1 m/s、最大瞬間風速59.5 m/s、三宅島で最大風速29.7 m/s、最大瞬間風速41.0 m/sなどを観測した。

この台風により、猛烈な雨や風となった伊豆諸島では八丈島を中心として住家191棟や農作物に被害が発生した。また、南西諸島では海上や航空の交通機関に欠航などの障害が多数発生し、種子島の南東海上では中国船籍の漁船が遭難し乗組員11名が行方不明となった。

第4表 台風発生・上陸数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年合計
1951 S.26		1	1	2	1	1	3(1)	3	2	4(1)	1	2	21(2)
52 27						3(1)	3(1)	5(1)	3	6	3	4	27(3)
53 28		1			1	2(1)	1	6	3(1)	5	3	1	23(2)
54 29			1		1		1	5(1)	5(4)	4	3	1	21(5)
55 30	1	1	1	1		2	7(1)	6	4(1)	3(2)	1	1	28(4)
56 31			1	2(1)		1	2	5(1)	6(1)	1	4	1	23(3)
57 32	2			1	1	1	1	4	5(1)	4	3		22(1)
58 33	1			1	1	4	7(1)	5(1)	5(2)	3	2	2	31(4)
59 34		1	1	1			2	5(2)	5(1)	4(1)	2	2	23(4)
60 35				1	1	3	3	10(3)	3(1)	4	1	1	27(4)
1961 36	1		1		2	3	4(1)	6	6(1)	4(1)	1	1	29(3)
62 37		1		1	2		5(1)	8(4)	4	5	3	1	30(5)
63 38				1		4(1)	4	3(1)	5	4		3	24(2)
64 39					2	2	7	5(1)	6(1)	5	6	1	34(2)
65 40	2	1	1	1	2(1)	3	5	5(2)	8(2)	2	2		32(5)
66 41				1	2	1	4	10(2)	9(3)	4	3	1	35(5)
67 42		1	2	1	1	1	7	9(2)	9	4(1)	3	1	39(3)
68 43				1	1	1	3(1)	8(1)	3(1)	5	5		27(3)
69 44	1		1	1			3	4(2)	3	3	2	1	19(2)
70 45		1				2	3(1)	6(2)	5	5	4		26(3)
1971 46	1		1	3	4	2	8(1)	5(2)	6(1)	4	2		36(4)
72 47	1				1	3	6(2)	5	5(1)	5	3	2	31(3)
73 48							7(1)	5	2	4	3		21(1)
74 49	1		1	1	1	4	4	5(1)	5(2)	4	4	2	32(3)
75 50	1					2	2	4(2)	5	5	3	1	21(2)
76 51	1	1		2	2	2	4(1)	4	5(1)	1	1	2	25(2)
77 52			1			1	3	3(1)	5	5	1	2	21(1)
78 53	1			1		3(1)	4	8(2)	5(1)	4	4		30(4)
79 54	1		1	1	2		4	2	6(2)	3(1)	2	2	24(3)
80 55				1	4	1	4	2	6(1)	4	1	1	24(1)
1981 56			1	2		3(1)	4(1)	8(1)	4	2	3	2	29(3)
82 57			3		1	3	3	5(2)	5(2)	3	1	1	25(4)
83 58						1	3	5(1)	2(1)	5	5	2	23(2)
84 59						2	5	5	4	7	3	1	27(0)
85 60	2			1	1	3	1(1)	8(2)	5	4	1	2	27(3)
86 61		1		1	2	2	3	5	3	5	4	3	29(0)
87 62	1			1		2	4	4	6	2(1)	2	1	23(1)
88 63	1				1	3	2	8(2)	8	5	2	1	31(2)
89 H.1	1			1	2	2(1)	7(1)	5(2)	6(1)	4	3	1	32(5)
90 2	1			1	1	3	4	6(2)	4(2)	4(1)	4(1)	1	29(8)
1991 3			2	1	1	1	4	5(1)	6(2)	3	6		29(3)
92 4	1	1				2	4	8(3)	5	7	3		31(3)
93 5			1			1	4(3)	7(1)	5(2)	5	2	3	28(6)
94 6				1	1	2	7(1)	9(1)	8(1)	6		2	36(3)
95 7				1		1	2	6	5(1)	6	1	1	23(1)
96 8		1		1	2		5(1)	6(1)	6	2	2	1	26(2)
97 9				2	3	3(2)	4(1)	6	4(1)	3	2	1	28(4)
98 10							1	3	5(3)	2(1)	3	2	16(4)
99 11				2		1	4	6	6(2)	2	1		22(2)
2000 12					2		5	6	5	2	2	1	23(0)
01 13					1	2	5	6(1)	5(1)	3	1	3	26(2)
02 14	1	1		1	1	3	5(2)	6	4	2(1)	2	1	26(3)
03 15	1			1	2(1)	2	2	5(1)	3	3	2		21(2)
平年値 (1971-2000)	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0(0.0)	1.7(0.2)	4.1(0.5)	5.5(0.9)	5.1(0.9)	3.9(0.1)	2.5(0.0)	1.3	26.7(2.6)

- (注) 1. 台風の発生：北西太平洋に存在する熱帯低気圧について、域内の最大風速が初めて17.2m/s以上になったこと、この日時を含む月を発生月とする。
2. 台風の上陸：台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいい、台風の中心が小さい島や半島を横切って短時間で再び海上に出る場合は含まない。
3. 表中、()内の数字が上陸数である。
4. 太い数字は1951年(昭和26年)以降の最多を示す(ただし2月を除く)。